

信濃美術館の基本設計にかかる

「県民リレー・ワークショップ」(観光・地域づくり関係者)の意見概要

日 時：平成 29 年 10 月 3 日 (火) 午前 10 時から 12 時

場 所：長野県庁 西庁舎 304 号会議室

出席者：(株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏

松本信濃美術館整備担当参与、青木県民文化部長、日向信濃美術館整備室
長、塩入施設課企画幹

参加者：25 名

概 要

[主な意見等] (アンケートへの回答含む。)

【全体】

- 美術館と城山公園の管理区分が分れることにより、様々なことがやりづらくなることを心配している。県と長野市の合同ワークショップを開催したらどうか。
- 県と長野市の動きが別々ではいつまでも並行である。
- 問題点や課題がはっきりしないワークショップは意味がない。

【設計関連】

- 人が集まる交流スポット、気軽に芸術に触れられるスポットになるとよい。
- 美術館の敷居を低くすることは大切なこと。美術館が公園の延長線上のスペースだと考えられると魅力的なエリアになる。
- エントランスなどに県内作家がつくった象徴的なモニュメントがあると撮影スポットになってよい。
- 地域住民のための美術館なのか、観光客のための美術館なのか、どちらを重視するかバランスが大事。観光客のためには写真映えするランドマークが必要だが、一方で地域住民からは煙たがられる場合がある。バランスを重視して設計してほしい。
- 外国人には、日本庭園や茶室など、日本らしさが感じられる空間があるとよい。
- MOA美術館から見た熱海の海の景色が忘れられない。信濃美術館にも心に残る何かがあるとよい。
- 城山公園は桜がきれい。美術館の中に桜がきれいに見えるビューポイントがあると外国人は魅力を感じる。

- 善光寺越しの夕日は非常に美しく、信州のサンセットポイント百選に選ばれている。そういった素材もぜひ活用してほしい。
- このエリアは第一種低層住居専用地域であり、長野市として美術館周辺をどう整備していくのかが見えない。
- 近隣住民にとってどういう施設であるべきかという議論が外れてしまうことが多い。地域に愛される美術館にするために、用途地域を考え直す必要がある。
- 善光寺宿坊の駐車場にバスを停めて、美術館まで歩くことは観光客にとってそれほど気になる距離ではない。美術館に立ち寄るストーリーがあるとお客さんを誘導しやすい。
- 団体ツアーは料金がシビア。無料ゾーンが充実しているとツアーに組み込みやすくなる。
- 県外からのお客さんを案内するとき、中央通りから善光寺が見えること、善光寺まで歩いて行けることを紹介する。一連の観光を意識したアピールの中に信濃美術館がないといけな。地元の人が善光寺の他に信濃美術館を案内できるような場所にしてほしい。
- 長野駅から表参道を通って、善光寺や城山公園と関連性をもった総合計画がないと以前のままになってしまう。
- 門前界隈の使われていない建物を、アーティストのレジデンスや制作場所に活用するなど、新美術館の活動をサポートする施設にしていけるとよい。
- 外国人はバスに乗るのが難しいので、できるだけ歩きたいと思っている。長野駅から信濃美術館までの道で伝統的な日本を感じられるととっても楽しめる。
- 案内板は日本語だけではなく、様々な言語があると助かる。翻訳が正しくないものも多く見受けられるので、ネイティブチェックが必要。
- 地域住民に開かれた美術館にするには、建築段階で、地域住民が参加できる何かがあるとよい。参加することにより地域住民の愛着がわく。
- 工事の途中経過を見学できるなど、話題性を途切れさせない試みが必要。

【運営関連】

- 海外からの観光客の視点では、外国人に認知度の高いアーティストの作品展示があれば行ってみたい。ジブリ展は、宮崎駿さんが海外でも有名なので外国人がたくさん来ていた。
- 絵はがきが作れるなど、外国人が体験できるコーナーがあるとよい。

- 地域の人向けに絵画などを教える体験教室があってもよいのではないか。
- 小学校の図工の時間に学芸員が学校に出かけて絵の描き方のコツを教えるなど教育委員会と連携した取組ができるとよい。
- 観光でキーになるのは若者。長野駅から善光寺、城山公園、信濃美術館の動線をドローンで撮影し、仏都の面影がありながら、新しい美術館や市民がコミュニケーションできる場所が連動していることを紹介できると、若者がSNSで情報を拡散してくれる。若者の行動パターンを含んだPR、情報発信が必要。
- 映画やドラマの撮影の受け入れを積極的に行うとよい。マスメディアの力を利用したほうがよい。
- 観光に結びつけるには、まずは地域の人にファンになってもらうことが大切。ファンになってもらえれば口コミで評判が広がり、着実に観光に結びついていく。
- 地域の人向けにファミリーデーやシルバーデーをつくるなどのサービスを連動して行くと、地域の人に参加している意識と自分たちが育てていく美術館という気持ちが生まれてくるのではないか。
- 家族連れで行くには、無料スペースの充実が大切。美術館の敷居を低くする意味では、お金がかからないのが一番である。
- 今、善光寺は結婚式の写真の前撮りスポットになっている。美術館でレストラン・ウェディングができると若者に対して敷居が低くなる。
- 観光資源として共有化を図らなければいけないのは善光寺である。灯明まつりと連携してナイトミュージアムをやってほしい。
- 長野の観光コースに東山魁夷館を入れようとしても入場料を払ってまでという選択には至らないのが現状。そこに行かなければならないオンリーワンがあると商品造成がしやすい。例えば、学芸員のマニアックな説明が聞ける、バックヤードが見学できるなど、観光客は普段と違う何かを求めている。
- 善光寺に行ったら、必ず美術館に寄り、そこから各地に飛び出すルートが組めるとよい。例えば、善光寺の後に、美術館のレストランで食事をすれば、観光バスの駐車を美術館で引き受けるのはどうか。長野駅から善光寺に行き、美術館で見学と食事をし、その後に各地に飛び出すようなことができるとよい。
- 地方の美術館には、よほどのものがない限りわざわざ足を運ばない。集客スポットである善光寺と一体となった企画ができるとツアーが組みやすい。
- 美術館の取組が商店街の賑わい創出につながるとよい。例えば、美術館の半券を見せると門前の商店街で何かサービスが受けられるとよい。

- 善光寺の戒壇巡りと連携した共通券があれば、観光客にまちを回遊させることができよう。
- 商店街のレシートをミュージアムショップで見せると絵はがきがもらえるなどのサービスが受けられると来館動機につながるのではないか。

(以上)